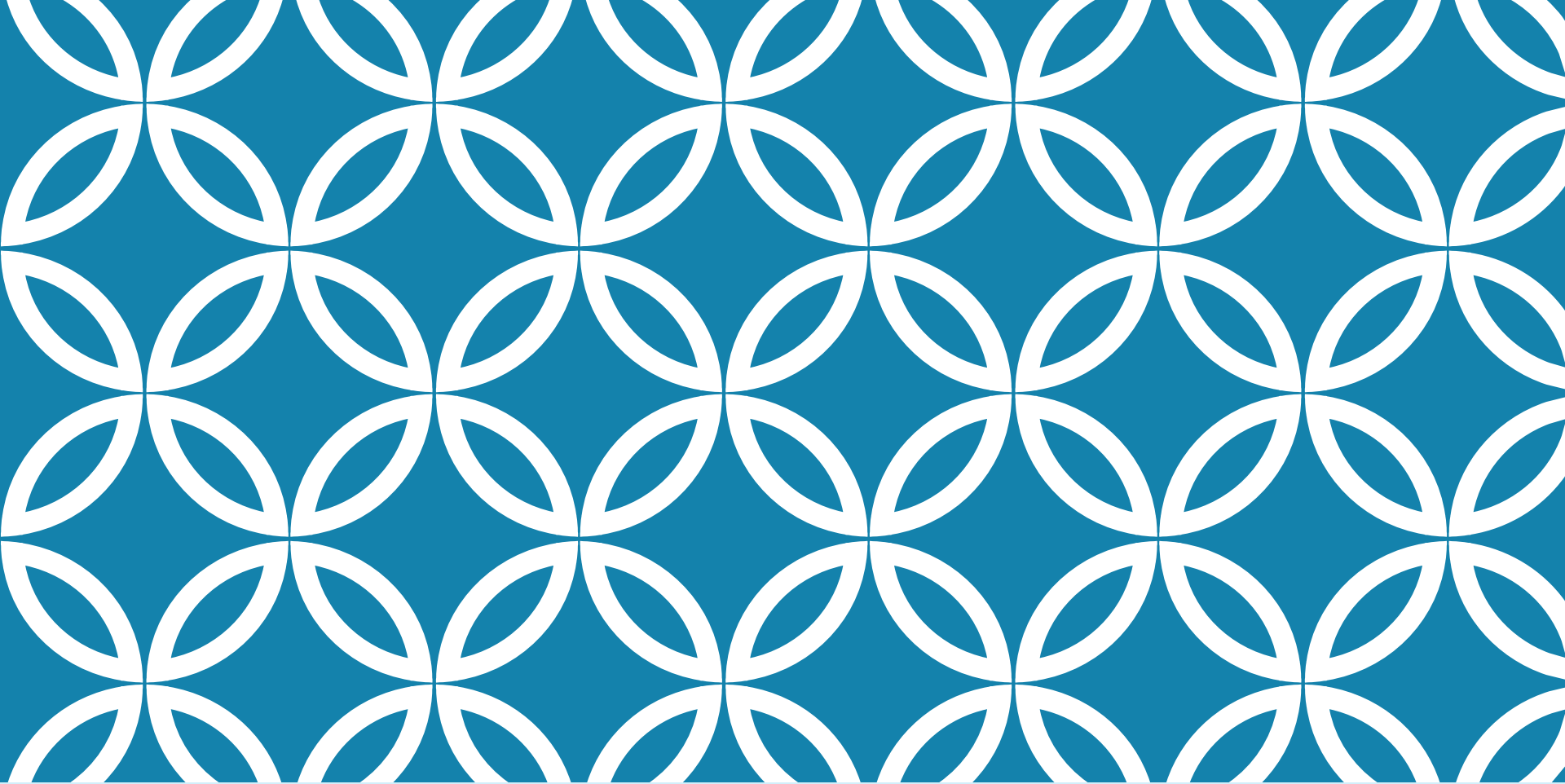




日本文化をコンテンツとした 英語授業でのCLIL実践報告

武蔵野大学

綱島珠美、山下理恵子

自己紹介

➤ 綱島珠美

➤ 武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科、非常勤講師

➤ バックグラウンド

教育学修士（M. Ed）、第二言語習得、応用言語学、TESOL、日本語教育

➤ 職歴：新聞社勤務を経て、日本語学校主任講師、大学・大学院にて英語科目、日本語教員養成課程科目、異文化コミュニケーションなどを担当。

自己紹介

➤ 山下理恵子

➤ 武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科、非常勤講師

➤ バックグラウンド

カルチュラルスタディーズ（MA）、言語文化（博士号）、博士論文は「アイリッシュ・ダンスのアイデンティティ」

➤ 職歴はドイツの日系企業（小売）、日本のドイツ系企業（化学メーカー）、アイルランドの日系企業（製薬メーカー）、フリーランスのライター、翻訳業

武蔵野大学グローバル学部 日本語コミュニケーション学科

目標は英語・中国語を身につけ、外国人留学生とともに学ぶ環境で日々異文化コミュニケーション力を磨きながらサブカルチャーを含めた日本文化と日本語を体系的に学び、国内外で活躍できるグローバル人材を育成すること。**日本人学生と留学生が協働して日本について発信するコンテンツを含んだ英語の授業を設計。**

日本人学生と留学生（中国、ベトナムなど）の割合は約半々。授業は4学期制（1、2学期が前期、3、4学期が後期）

- 留学生の多くが日本語教員や日本企業への就職を希望。
- 日本人学生の学部選択理由はさまざま。

武蔵野大学グローバル学部 日本語コミュニケーション学科

日本人学生は英語と中国語、留学生は英語と日本語を学ぶ。1年生の英語のクラスは入学時GTECにより4レベルのクラス分け。学科に英語の専任教員がいないため、授業組み立ては一任された。

英語のカリキュラム (2019) :

学年	授業科目
1年	Practical Communication 1A, 1B, 1C, 1D (週2回) English for Qualifications 1A, 1B, 1C, 1D (週2回)
2年	Practical Communication 2A, 2B, 2C, 2D (週2回) English for Qualifications 2A, 2B, 2C, 2D (週2回) Remedial English
3年	Practical Communication 3A, 3B, 3C, 3D (週2回) English for Qualifications 3A, 3B, 3C, 3D (週2回) 英語資格演習

学生が英語を学ぶ動機分析

日本人学生 (n=37) / 留学生 (n=38)

5: とても思う、4: わりと思う、3: どちらでもない、2: あまり思わない、1: 全然思わない

英語を学ぶ目標は？

1) 英語で必要な情報を集められるようになりたい

4.3

4.0

2) 将来、英語を使った仕事をしたい

4.1

3.6

3) 海外旅行などで英語を使えるようになりたい

4.9

4.4

4) 英語圏の大学や語学学校に留学してみたい

4.0

2.8

どうして英語を学ぶのか？

1) 充実志向 (英語がわかると楽しい)

4.4

4.2

2) 訓練志向 (頭の訓練になる)

3.5

3.3

3) 実用志向 (英語力があれば生活や就職に役立つ)

4.7

4.4

4) 関係志向 (大学で必修科目なので仕方ない)

2.5

2.9

5) 報酬志向 (TOEICなどの検定試験でよい点をとりたい)

3.9

3.9

6) 賞賛志向 (英語ができてすごいと思われたい)

3.7

3.7

1学期：日本の地域紹介

EQ週2回のうち1回、PC教室にて共同クラスで作業。

日本の9地域（北海道、東北、関東、中部、関西、四国、中国、九州、沖縄）をそれぞれのグループが紹介

- ◆グループごとに1地域を担当し、「地形」「人口」「産業」「名所」「名物」「祭り」などをインターネットで調べた後、パワーポイントにまとめる。
- ◆1グループ4～5名。日本人と留学生の混合グループとした。
- ◆各自がパワーポイントでビジュアルを示しながら、内容を英語で発表する。

1学期：日本の地域紹介

Content	Communication	Cognition	Culture
日本の9地域の風土、産業、名所を紹介	be located in / be famous forといったフレーズ、人口、地理、名所などの単語、グループプレゼン	地域特性について調べて、分析	日本の風土と産業、名所の理解、日本人と留学生の協働

1学期：日本の地域紹介

留学生

- おしゃれなPPTを作れるように頑張りたいです。
- 日本語と英語力両方上げる一方で日本文化をするようになった。
- 自分の役割を果たした楽しみは何よりです。

日本人学生

- これから世界に日本のことを発信して行こうと思いました。
- 留学生の子と一緒にプレゼンテーションをつくったりすることで、皆の意識が高くて、自分も頑張ろうと思いました。
- グループワークで自分の言葉で伝えていく大切さを感じました。

1学期：日本の地域紹介

成果

- ✓日本人学生と留学生学生が知り合う機会となり、お互いに刺激を受けた（日本人学生の日本に関する知識、留学生のPCスキルや英語力など）
- ✓イントロの自分の出身地紹介→地域紹介につなげることで、地理や位置関係を示すフレーズが定着した。
- ✓日本についてもっと知りたいという動機づけになった。

課題

- ✓2レベルの合同クラスのため学生の英語スキルの差が大きい（1クラスでもレベル差は大きい）。
- ✓背景を分析できず「調べる」だけに終わってしまったグループもあるが、1学期に得た知識を2学期のアクティビティにつなげたい。

2学期：ユニークな東京ツアーを作ろう

ユニークなテーマ（日本的文化要素）を決めて、アクティビティを盛り込んだオリジナル東京ツアーを作成。PC教室が使えなかったため、手書きでツアーの宣伝ポスター、日程表、地図、観光スポットとアクティビティの詳細のビジュアルを作成。グループでツアーの内容を発表した。

- ✓ 事前にはとバスツアーを調べて、一般的な東京ツアーについて学習
- ✓ 留学生と日本人のグループで協働作業
- ✓ 東京の交通手段を調べて、所要時間、乗り換え方法などを英語で表現できるように練習した。

2学期：ユニークな東京ツアー を作ろう

Content	Communication	Cognition	Culture
日本文化の要素を加えた「ユニークな東京1日ツアー」を企画・発表	料金、交通手段、経路、名所やアクティビティを英語で説明、グループプレゼン	東京について詳しく調べて、外国人向けの魅力的なツアーを発案する	日本の伝統文化や最近の社会背景などの理解

2学期：ユニークな東京ツアーを作ろう

留学生

- グループに分けて英語の課題を探究するうちに英語の単語がいくつか覚えたのでよかったです。
- チームワークで自分の意見を出す仕方が勉強になった。勉強意欲も高まった。
- プレゼンスキルや単語力の不足が気づいて、これからもっと学ぶたいと決心しました。

日本人学生

- グループアクティビティのテーマが身近なものでモチベーションが上がった。
- グループのメンバーに迷惑にならないようにするためにより学ぼうという意欲がたかまった。
- 日常的に英語を使う良い練習になった！もっと英語を頑張りたいと思った。

2学期：ユニークな東京ツアーを作ろう

成果

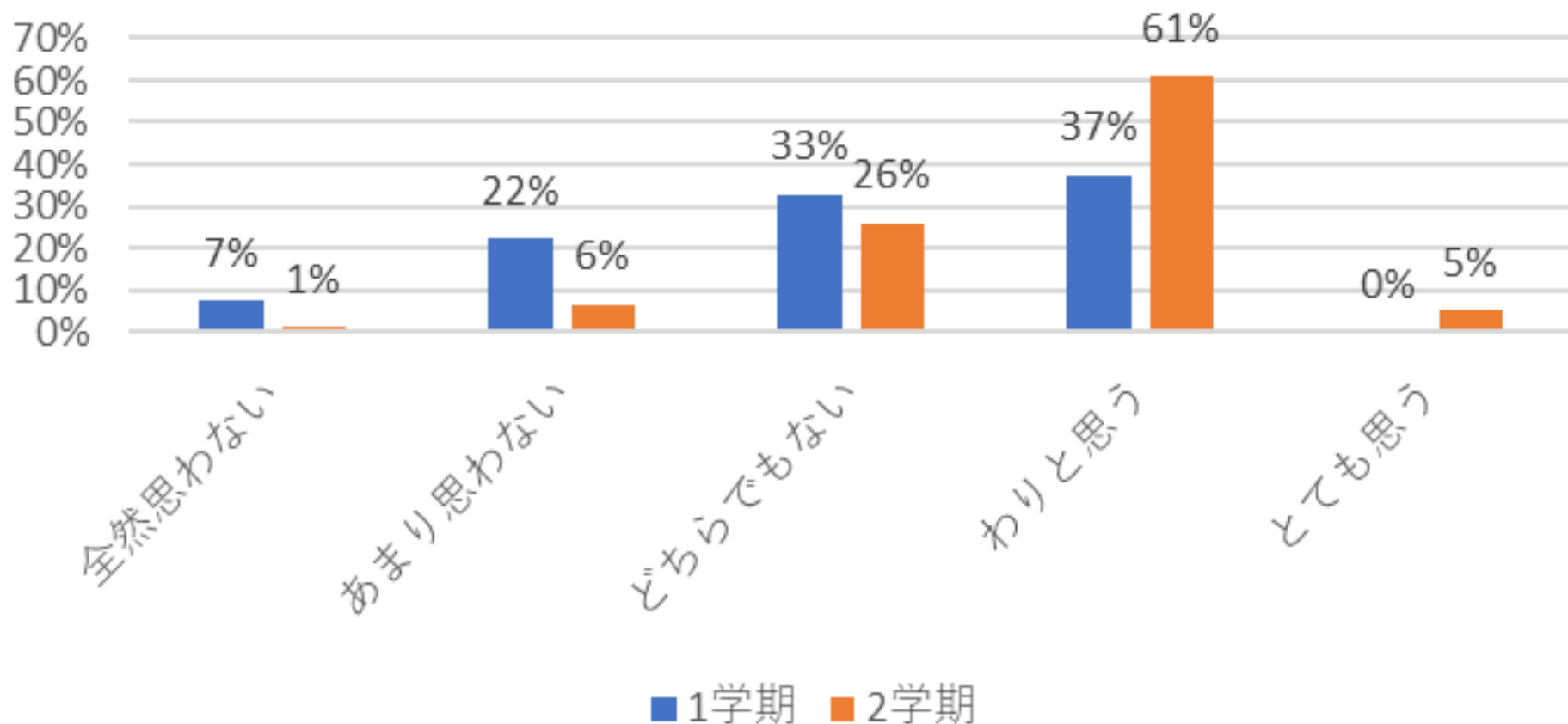
- ✓ 1学期の知識を基に自分たちのアイデアを話し合い、ツアーを企画できた。
- ✓ 東京の地理、歴史、名所、およびツアーのテーマとする日本文化についてインターネットで調べて、より深く知ることができた。

課題

- ✓ 発表のときに原稿を読まずに話すことを促したが、難しく感じた学生もいた。
- ✓ コメントシートやピアエバリュエーションを用いたが、「聞く」姿勢があまり好ましくない学生もいた。
- ✓ コストパフォーマンスやツアーの実現性を考慮することが難しいグループもあった。

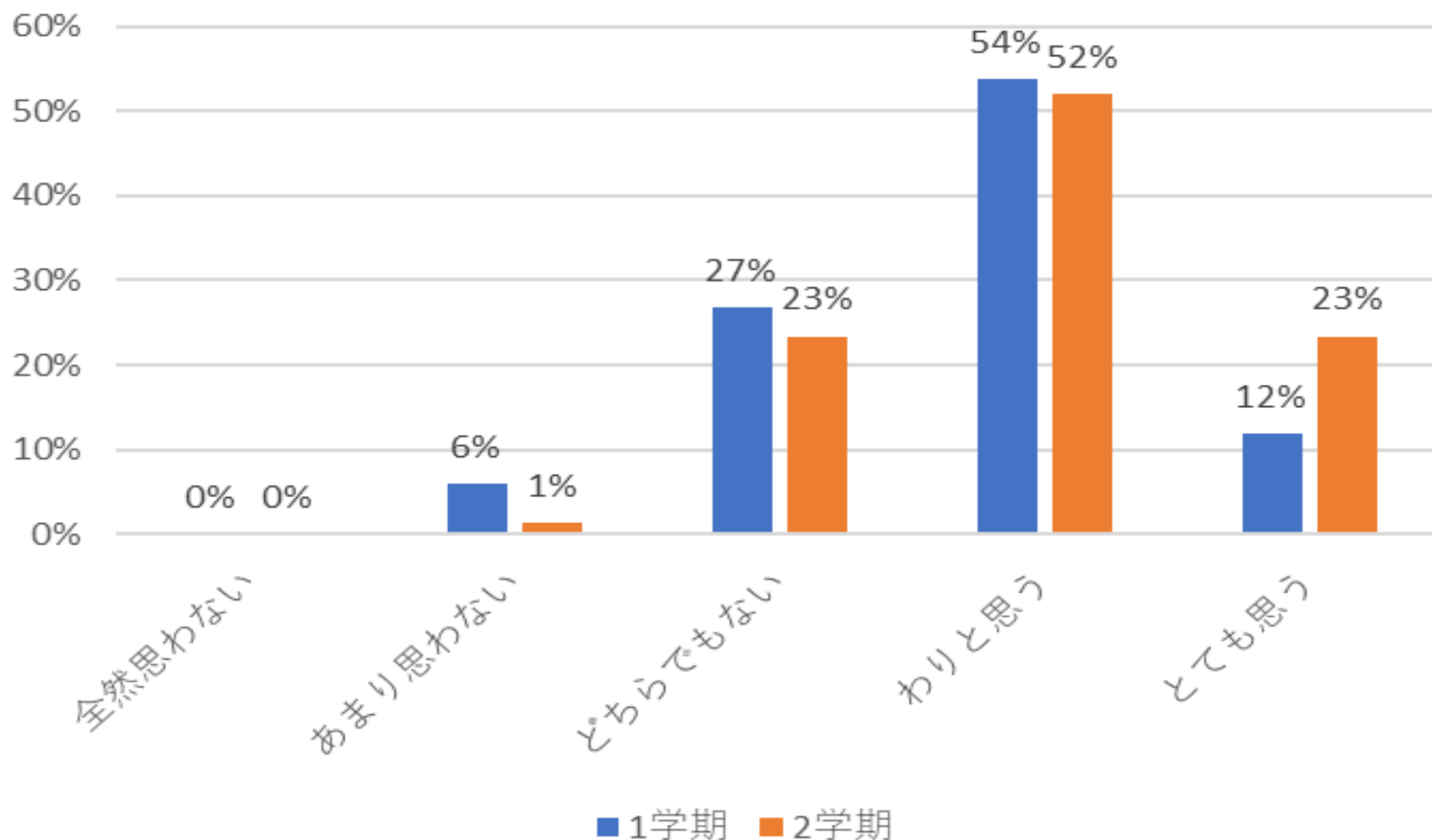
アクティビティに関する調査

アクティビティで英語のスキルが向上した



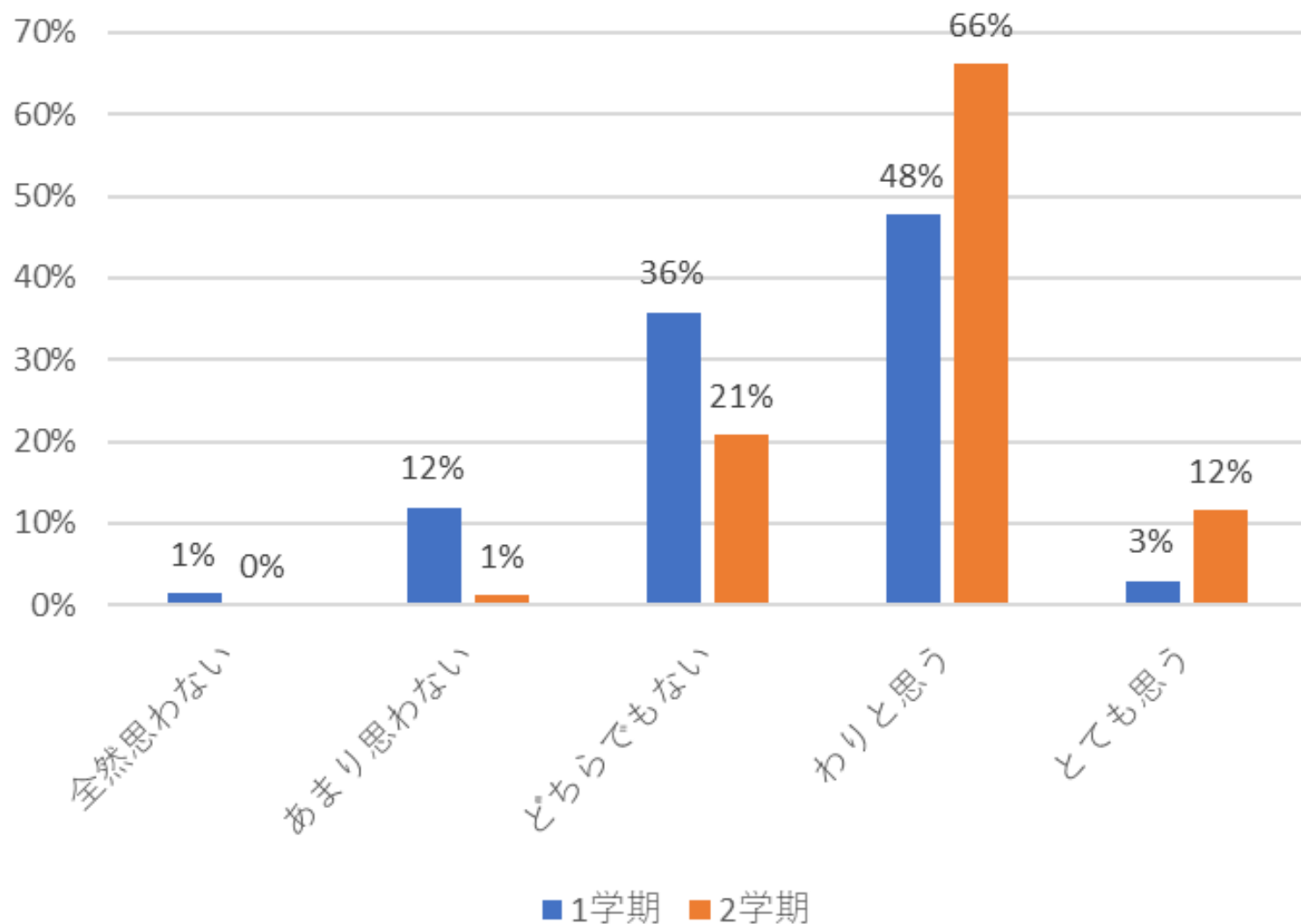
アクティビティに関する調査

グループワークで英語を学ぶ意欲が高まった



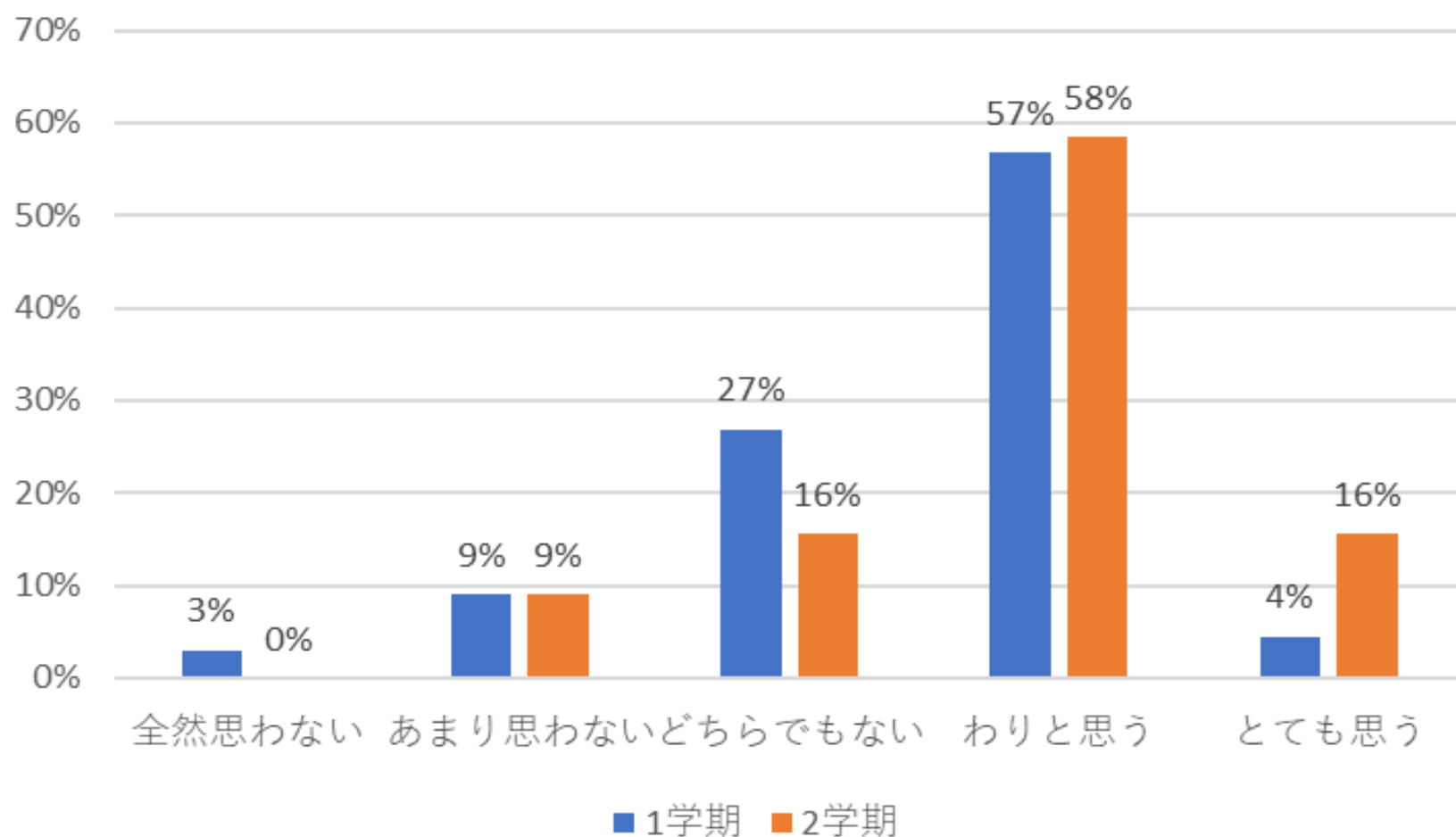
アクティビティに関する調査

プレゼンスキルが身についた



アクティビティに関する調査

日本文化について英語で発信することができた



考察

- グループワークについては学生はポジティブで、楽しく協働作業を行ったという学生が多かった。
- しかし、英語スキルの向上という点では他の指標が必要だと感じた。特にプレゼンはスピーキングに比重が置かれたため、ライティングについては別途フォローアップが必要。
- 2年間継続したが、学生の英語への関心度、スキルが大きく異なり、内容を臨機応変に変える必要があった。
- 非常勤講師であるため、他講義（異文化コミュニケーションなど）や大学の施設との連携などが難しく、授業の組み立てにも制限を感じた。

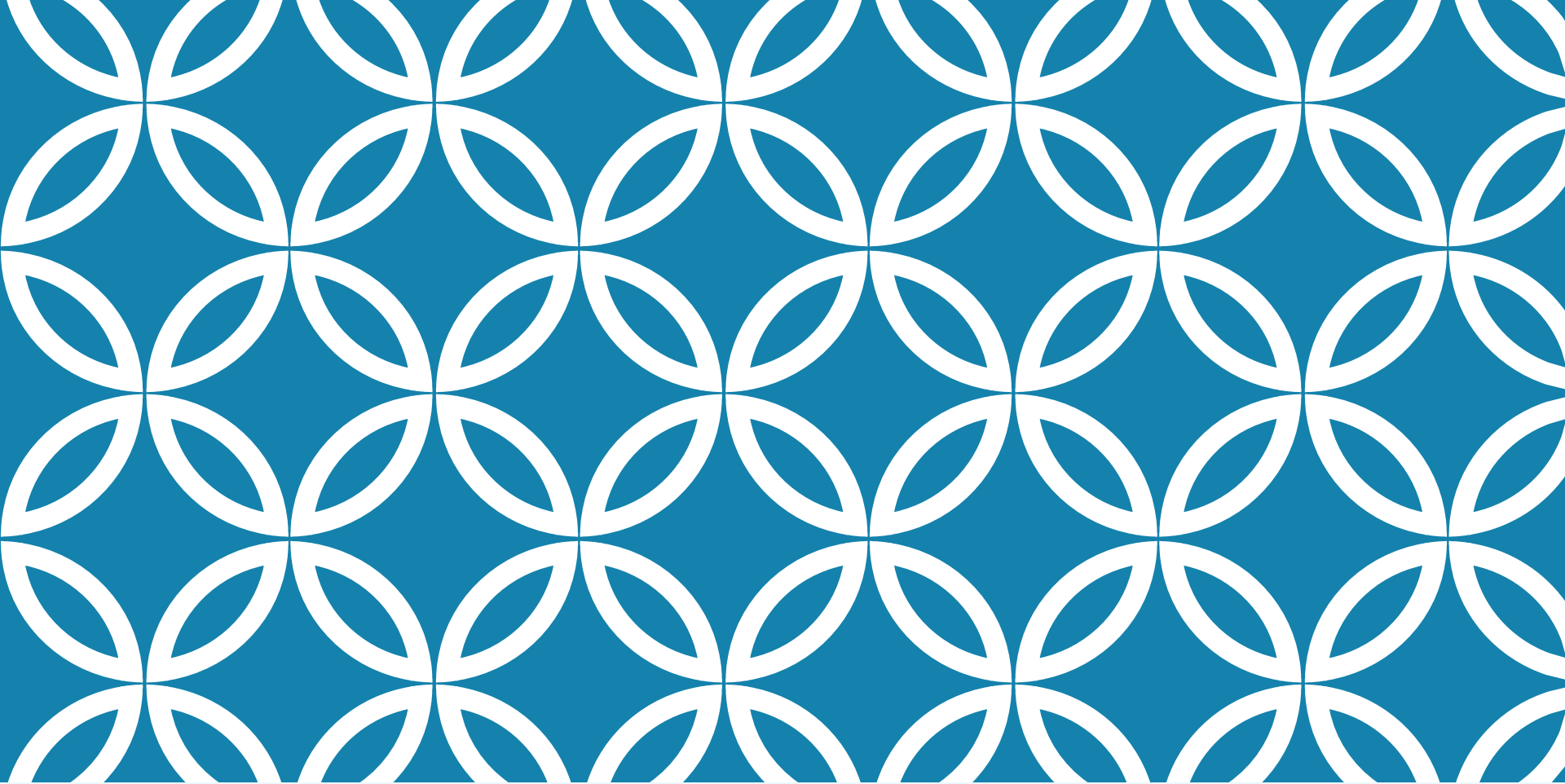
今後の予定

3学期

東京オリンピック開催を念頭に置いて、オリンピック種目と日本の伝統スポーツをインタビュー形式で紹介するテレビ番組を企画し、ロールプレイで実演する。

4学期

企業の組織や仕組みについて学び、メーカーが「日本的要素」を取り入れた新製品を開発することとして、各メーカーの部署の責任者が自分の立場で新製品の開発、マーケティング、人事戦略、予算や売り上げ予測といった財務戦略をプレゼンする（TOEICのビジネスシチュエーションを学ぶ枠組み）。



THANK YOU FOR LISTENING

